

広報

もり 中部の森林

8月27日まで
募集中！

デイスカバー
農山漁村の宝
AWARD
～第10回選定～



写真：「ヒメオオクワガタ」
(飛騨署(天生グリーン・サポート・スタッフ)提供)

特集

・森林土木分野における「新技術・新工法」の技術プレゼンテーション
各地からの便り

- ・木曾ヒノキの森林で三者協定現地検討会を開催
- ・南アルプスの高山植物を守ろう！仙丈ヶ岳の防鹿柵設置作業 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り「らいちょうの森」
東洋計器株式会社 会長 土田 泰秀



林野庁中部森林管理局



2023/No.233

森林土木分野における
「新技術・新工法」の
技術プレゼンテーション

【治山課・森林整備課】

中部森林管理局管内で実施している森林土木工事は、山間奥地の厳しい現場条件に加え、建設業の担い手不足や高齢化、建設業における働き方改革が本格化するなど、工事の安全性の向上や施工の省力化・効率化が今後の課題となっています。

このような中、令和五年度における当局的新たな取組として、六月三十日に「森林土木分野における『新技術・新工法』の技術プレゼンテーション」を開催しました。

この技術プレゼンテーションは、こうした課題の解決に資する新技術等について、テーマを設定のうえ募集を行い、応募いただいた企業から提案をいただくものです。

当局が募集したテーマは、「ICT」、「治山ダム等に関する新工法」及び「省力化・軽量化に資する工事用資材」とし、募集に当たつ

ては、局ホームページに掲載しました。

募集の結果、二十一社からの応募があったことから、プレゼンテーションは局大会議室と研修室の二会場による対面とWEB参加のハイブリッド形式で実施しました。また、林野庁業務課の企画官をはじめ、富山県、長野県、愛知県、(一社)長野林業土木協会、(一社)名古屋林業土木協会にオブザーバーとして参加していただきました。

各企業からのプレゼンテーションは、実演や動画による説明など工夫が凝らされており、特徴やメリット等について分かりやすく説明していただきました。説明を受けた参加者からは多くの質問が寄せられ、提案いただいた企業からは「このような機会を設けていただいたことは大変ありがたい」とのコメントをいただくなど、大変有意義なものとなりました。

提案いただいた内容は当局のみならず、他の森林管理局や都道府県等の民有林部局への展開も期待されることから、発表内容等につ

いては、局ホームページに掲載しますので多くの方にご覧いただきたいと思っています。

新技術・新工法 技術プレゼンテーション プログラム

第1会場 (大会議室)	金子工業株式会社 [治山工事特有の諸課題に対し、新技術・新工法・創意工夫で挑む]
	明治コンサルタント株式会社 [拡散レーザー変位計(Merex-D)]
	長姫調査設計株式会社 [最新のレーザー技術を使った測量・調査方法とICT施工・出来形管理]
	株式会社オプティム [OPTiM Geo Scan]等
	日本建設技術株式会社 [FWGウッドチップ工法]
	株式会社コシイレーザービング [高耐久処理木製資材について]
	株式会社共生 [下半もたれ式ダブルウォール及びSSSフォームレス]
	シバタ工業株式会社 [流木等を捕捉する『流木ストッパー』]
	株式会社プロテックエンジニアリング [アーバンガード]
	株式会社長瀬土建 [屋根型作業道(欧州式)]
株式会社ライズ [カチオンフレーム工法(土留擁壁)]	
第2会場 (研修室)	日本植生株式会社 [生物多様性に配慮した緑化工法]
	日鉄建材株式会社 長野営業所 [鋼製自在枠・Geoベルト(plus)・テレスコドレンパイプ]
	株式会社 アドヴァンス [集水井補修工法(鋼製から鉄筋コンクリートへの更新工法)]
	三井化学産資株式会社 [路盤補強用三軸ジオグリッド「テンサー-TX」]
	日新産業株式会社 [イースターマット工法]
	前田工織株式会社 [フルボンリリーズ・グリーンスラッガー・リバDEM工法]
	北陽建設株式会社 [クロスカバーネット工法及びハイブリッド型3次元測量]
	株式会社トーエス [斜面浸食防止表層土砂流出抑制対策工法(EPM)]
	アスザック株式会社 [クイックブロック及びポラメッシュ]
	国土防災技術株式会社 [しかボロン]



WEBでのプレゼンテーション



第2会場(研修室)の様子

**木曾ヒノキの森林で
三者協定現地検討会を開催**



【木曾森林ふれあい推進センター・木曾森林管理署】

木曾森林管理署

六月十三日から十四日の二日間、木曾署管内の国有林において、「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」の現地検討会を開催しました。

この協定は、森林研究・整備機構森林総合研究所（以下「森林総研」、信州大学農学部及び中部森林管理局の三者が、それぞれ実施する研究、事業等において連携と協力をを行い、森林・林業、木材利用の課題を解決し、その成果の活用による地域の振興を目的としており、本検討会には関係者二十名が参加しました。

初日は、木曾郡上松町の赤沢自然休養林において、現在の木曾ヒノキ林が成立する前の林分構造を推定するため、森林総研と木曾森林ふれあい推進センターで調査・分析を行い、樹齡が千年程度と推定された木曾ヒノキの古い根株を



古い根株を確認しながらの意見交換

確認しながら、今後の調査・分析に向けて意見交換を行いました。

二日目は、森林総研と木曾署が木曾ヒノキの天然更新技術の確立に向けて共同調査を行っている木曾郡王滝村三浦国有林の試験地において、天然更新の妨げになるササの処理方法とヒノキの稚樹の発状況を確認し、天然更新技術について検討しました。

四年ぶりの開催となりましたが、相互に研究成果の理解を深めることができました。

今後も三者の連携強化を図り、地域の森林・林業等の発展に向けて取り組んでいきたいと考えています。

**学生の現地実習の場となる
実験林や試験地を案内**



【森林技術・支援センター、岐阜森林管理署】

岐阜森林管理署

六月二十七日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科二年生の学生十九名の現地実習が行われ、当支援センター及び岐阜署の職員が試験地や実験林等を案内しました。

乗政国有林の「ヒノキ長伐期施業林」では、岐阜署の職員から平成二十八年度に製品生産請負事業で間伐材を搬出したこと、林齡が百年を超えるヒノキ人工林の間伐や木材の販売について説明しました。

この箇所では、上部の樹冠密度や林床の下層植生の状況を確認し、今後の施業方法について考えてもらいました。学生からは「しばらくは伐採せず、下層植生が回復するのを待つ」「二十年後くらいにヒノキの径級等をみて判断し、皆伐を行う」等の意見が出されました。



ヒノキ長伐期施業林の見学状況

小川長洞国有林の「ヒノキ間伐実験林」では、間伐率の異なる試験地を見学し、今後の伐採方法等について学生同士の意見交換が行われました。木材の生産や利用など、専攻分野に応じた様々な意見が出される中、当支援センターの職員が今後の施業方針について説明し、また、民有林ではあまり見ることが出来ない温帯性針葉樹の天然林も案内しました。

湿度が高く、蒸し暑い中で現地実習でしたが、知識を高める機会になったと思います。今後も学校等からの要請に応じ、学びの場としての国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。

レクリエーションの森での
ボランティア活動

【木曽森林管理署】

六月十九日、木曽郡王滝村御岳
国有林のレクリエーションの森で
ある「木曽御岳自然休養林」の田ノ
原天然公園（以下「公園」）におい
て、長野林業土木協会木曽支部主
催のボランティアによる遊歩道整
備活動が行われました。

同支部は、長野県木曽郡、岐阜
県中津川市の土木・林業の事業者
（十一社）で構成されており、社会
貢献活動として、毎年、木曽地域
の国有林に所在するレクリエー
ションの森を主体に環境美化の奉
仕活動を行っています。

今年、平成二十六年の御嶽山
噴火災害から九年目となります。
昨年八月には、公園に隣接する御
嶽山王滝口の七合目、現在の王滝
登山口に長野県立御嶽山ビジター
センター「やまテラス王滝」が設置
され、活火山である御嶽山に登る
前に規制等を確認しながら登山計
画書を提出する場として、また、
御嶽山の魅力が学べる施設とし



作業を終えて笑顔での集合写真

て、多くの方に利用されています。
公園も快適に利用していただくた
め、協会員に加えて、王滝村や当
署の職員等、総勢約四十名で老朽
化した木製遊歩道の土台、敷板等
の撤去作業を行いました。
車両が入れない場所での作業で
あり、朽ちて水分を含んだ土台や
敷板は予想以上に重く、細かい物
は土のう袋に入れ、大きな物は肩
に担いでの運搬に苦労しながら、
無事に作業を終えました。

六月二十九日には、木曽郡上松
町小川入国有林の「赤沢自然休養
林」において、長野国有林森林整
備協会木曽支部の造林部会と生産
部会合同による地域貢献活動が行
われました。

同支部の造林部会は、長野県内
の国有林の造林事業を行う林業事
業者（七社）、生産部会は、長野県
内の国有林の生産事業を行う林業
事業者（六社）で構成されており、
これまで造林部会による活動が行
われてきましたが、今年は生産部
会も加わり、総勢二十名による活
動となりました。

赤沢自然休養林の来園者は、多
い時には年間十万人程でしたが、
コロナ禍の影響もあり、昨年は
四万人程に減ってしまいました。
しかし、今年は制限がなくなっ
たこともあり、観光バスやインバ
ウンドのお客様が増えています。
そのため、上松町観光協会から
「ここ数年、使用頻度が減ってい
た第五駐車場をきれいにしてもら
えたらありがたい」という要望を
受け、駐車場の環境整備を行いま
した。



ボランティア作業の様子

当日は、刈払機で駐車場や歩道
に張り出した樹木の枝切り、駐車
場の舗装の隙間から生えてきた草
の刈り払い、駐車場法面の草刈り
などを手分けして行いました。
切った枝は林内に整理し、駐車
場に散らばった枝や草はプロアー
で清掃するなど、来園者が気持ち
よく使用できる状態にしました。
当署では、今後も地元の自治体
や関係団体等と連携・協力し、山
村地域の振興に努めてまいります。

有害鳥獣捕獲の
職場内研修を実施



【愛知森林管理事務所】

六月二十一日、当所会議室と北設楽郡設楽町の段戸国有林において、有害鳥獣捕獲の職場内研修を実施し、職員十八名が参加しました。

ニホンジカ等の増加による植栽木の被害等により、当所管内においても造林地育成への負担が増加しており、平成三十年から有害鳥獣の捕獲に取り組んでいます。鳥獣による農林水産業や生態系に係る被害の防止を図ることを目的として、地元設楽町猟友会への委託及び協定による捕獲のほか、数年前からは当所職員が国有林野内で有害鳥獣を捕獲する「職員捕獲」を実施しています。

職員捕獲を実施するための職場内研修は、これまで狩猟に精通した職員が講師となり、捕獲業務に従事する予定の職員への説明等を行ってきましたが、近年の鳥獣行政を学ぶため、今回は愛知県新城設楽振興事務所の加藤主任を講師



段戸国有林での実技講習の様子

にお迎えし、法制度を中心に分かりやすくご講義いただきました。続いて、くくりワナの設置や動画によるニホンジカの特性等について学んだ後、段戸国有林に移動し、くくりワナ設置の実技講習を実施しました。今後、捕獲許可を得て、職員捕獲に取り組むこととなりますが、くくりワナを設置する場所の選定や手法等、様々な意見を取り入れながら取り組んでいきたいと思えます。

鳥獣保護及び狩猟に関する
講習会を開催



【南信森林管理署】

六月二十八日、鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催し、当署職員と木曾森林ふれあい推進センターの職員、総勢二十四名が参加しました。

当署管内の国有林では、職員捕獲をはじめ、くくりワナ(以下「ワナ」)の貸出や地元猟友会との協定、各種協議会などの協力、「ついで見回り・通報」の取組により、昨年度は令和三年度の一、八五五頭を七九二頭上回る、二、六四七頭を捕獲しました。

本年度も鳥獣の保護や狩猟に関する知識の向上を図るとともに、獣害対策に専門的な知識を有する職員の育成に資することを目的に講習会を企画し、午前は上伊那地域振興局及び南信州地域振興局の鳥獣対策専門員を講師に、法令や鳥獣の生態、特性について学び、

午後は手良沢山国有林において、地元伊那市猟友会員三名より、ワナの仕組み、設置場所の選定、設



地元猟友会から説明を受ける職員

置する際の注意事項、獣がワナに掛かった後の対応等の説明を受けた後、三班に分かれ実際にワナの設置を行いました。

今回初めてワナを設置した職員からは、「女性でもコツをつかめば割と簡単に設置できる」「作動したワナが思ったよりも外れないことに驚いた」「ワナを設置する穴が浅いと感じ、その分、カモフラージュに力を入れた」などの声がありました。

講義や実技で学んだことを活かし、引き続き、地元猟友会、関係機関及び各協議会等と連携し、積極的に有害鳥獣被害対策に取り組みます。



ハイマツから姿を見せた南アルプスのライチョウ

南アルプスの

高山植物を守ろう！

仙丈ヶ岳の防鹿柵設置作業

【南信森林管理署】

七月六日から七日の二日間、標高約二、七〇〇メートルに位置する伊那市長谷黒河内国国有林の南アルプス仙丈ヶ岳、馬の背ヒュツテ周辺において、南アルプス食害対策協議会（以下「協議会」）会員やボランティア等の総勢三十五名により、貴重な高山植物等をニホンジカの食害から保護するための防鹿柵設置作業を行いました。

平成十九年に長野県、伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村、信州大学農学部と当署により協議会が発足し、翌二十年から防鹿柵の設置作業が行われ、今年で十六年目となりました。その間、設置箇所を徐々に増やし、現在では十六箇所、総延長は一、八四七メートルに及んでおり、防鹿柵の中では、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイ等が生育しています。

作業初日は朝八時に伊那市長谷の南アルプス運行バス発着場を出

発し、北沢峠までバスで移動、そこから徒歩で約三時間かけて、作業場の馬の背ヒュツテに到着しました。作業内容の説明後、植生保護のために底の柔らかい地下足袋やスニーカー等に履き替え、三班に分かれて作業を行いました。

今年は雪解けが早く、例年より残雪が少なかったことから、ニホンジカによる高山植物の食害が危惧されましたが、幸い被害は見られず、両日とも好天に恵まれ、無事に作業を終えることができました。また、下山時には、ハイマツから姿を見せるライチョウの親子と出会い、富士山や、北岳、間ノ岳、鳳凰三山などの南アルプスを代表する雄大な山々を見ることができました。

これから仙丈ヶ岳を訪れる登山者の皆さんも可憐に咲く花々たちや素晴らしい風景等に癒やされると思います。

なお、九月下旬には、防鹿柵の支柱を外し、ネットを下げるなどの冬支度を行うこととしています。

シリーズ

森林官からの便り

【南信森林管理署

伊那里森林事務所】

首席森林官 下島 秀典

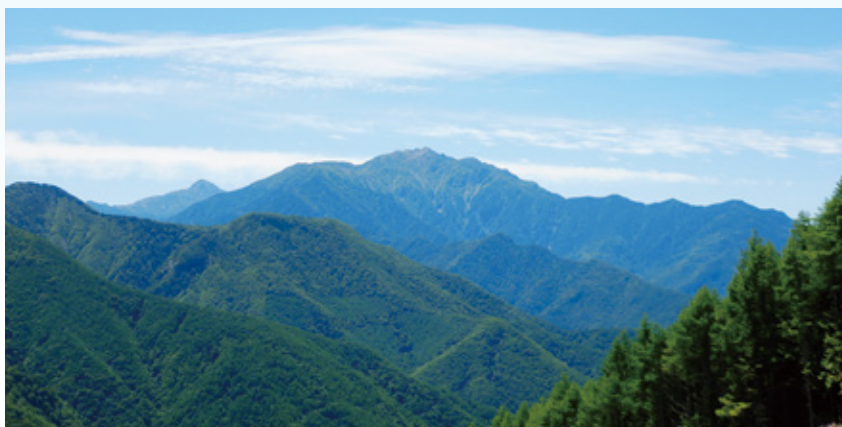
伊那里森林事務所は、長野県伊那市長谷に所在し、近くにはゼロ磁場で有名な分杭峠があります。山梨県や静岡県との境となる南アルプス北部、中央部の国有林を管理しています。

管轄しているのは、伊那谷森林計画区の黒河内・塩沢・浦国有林で、面積は合わせて約二〇、二四〇㌔を有し、面積の約三割が人工林で、管内の多くは天然林と高山帯が占めています。

管内には日本百名山にも選ばれている仙丈ヶ岳や塩見岳があり、登山や観光地として多くの方にご利用いただいています。

人工林の割合が少ない管内ではありますが、間伐や造林といった請負事業では、監督職員として国

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。



造林地より仙丈ヶ岳を望む

有林野での作業の確認、指示等を行っています。

現場は急傾斜地も多く、移動にあたっては体力だけでなく、足下の確認や足場の確保が必要です

が、ふと周囲を見渡すと目に映る南アルプスの絶景に癒やされながら業務を行っています。

また、重要な業務としてニホンジカ被害対策があります。

南アルプス食害対策協議会による仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ周辺での防鹿柵の設置では、ニホンジカによる食害対策を適確かつ効率的に行うことを目的に、伊那市や関係機関と連携し、ボランティアも募り実施しています。

地元の森林官として、参加者の皆さんに被害の現状をご理解いただくとともに、大変な作業を晴れやかな表情で行う姿に心から感謝しています。

色々な業務がありますが、地域に親しまれる国有林を意識して日々の業務を行っています。

■未来の担い手へのメッセージ

地域によって様々な特色があり、魅力的な国有林での仕事に興味のある方は、就職先の候補にしてはいかがでしょうか。



造林地での監督業務（右が筆者）



ボランティアによる防鹿柵の設置

辛夷・マルメロ・檉・冬青など、
 香梅・アブラチャン・サンシユウ・
 雪柳・山吹・黒文字・白文字・檀
 木・ナナカマド・白樺・コナラ・
 植樹した木々は、

「らしいちようの森」と名付けました。
 平成二年（一九九〇年）四月
 二十九日「みどりの日」に、水道や
 ガスメーターを製造する新本社工
 場の敷地約四万平方メートルの一角に社
 員・家族・協力会社・旧地権者の
 皆さんの協力を得て、一千本の苗
 木を植え、三十年後には、緑豊か
 な森になることを願って「らしい
 ちようの森」と名付けました。

■自己紹介



東洋計器株式会社
会長
土田 泰秀

「らしいちようの森」

シリーズ
「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



動植物や社員の憩いの場となる
緑豊かな森に（2020年）



植樹直後の「らしいちようの森」
（1990年）

工場内に植える行儀の良い木でな
く、信州の山中に自生するような
木を多く選びました。また、ドイ
ツ唐檜も植樹しました。

■活動内容

以来三十余年が経過し、立派な
森ができあがりしました。除草剤は
一切使わないようにし、下草は手
で刈り取り、自然に任せた腐葉土
が堆積しています。この「らしい
ちようの森」は、人間以上に動植
物に人気があるようで、思いもよ
らぬキノコ「鬼フスベ」や、鷹の
一種である鴛が巣を作り、子を育
てて飛び立っていききました。鴛や
鳥もドイツ唐檜の森が好きで、春
が来ると森の上で領空権を争って
闘っています。鴛・郭公・杜鵑・
小啄木鳥・メジロ・シメ・百舌鳥・
カワラヒワ・ヒヨドリ・椋鳥など
が飛来し、鳥達が落としていた
のか、森に「紫しめじ」が沢山の
コロニーを作りました。
六年くらい前から、森の中に蛇
が生息しています。生
垣の上で気持ち良さそ
うに体干しをしている
所を撮影、全長二メートルあ
る、大物の青大将です。
「東洋計器のアナコン
ダ」と呼称し、守り神
としています。



守り神の青大将

■メッセージ

大切にすべきは、緑を守ること。
 ホモサピエンスがアフリカを出て
 七万年になります。自然と共に生
 活をしていた人類が文明を手に
 し、都市を作り、森林を伐採し、
 CO₂は産業革命より遙か前、
 七千年前から上昇しています。
 人類が、地上の緑を略奪したから
 です。

地球の酸素は、緑によってもた
 らされた恩恵であることを忘れて
 はならない。「らしいちようの森」を
 訪れた鬼フスベや鴛、青大将達に
 出会い、そう感じています。



当社のガスメーターと
鬼フスベ

○連絡先

本社／松本市和田3967-110
 電話／0263-48-1121
<https://www.toyo-keiki.co.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第28回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「森林パトロール」

森林の見回り、現地確認は国有林の業務の中で日常的に行われますが、「森林パトロール」「山岳パトロール」という言葉は特に高山植物保護のための巡視活動や登山者への呼びかけの際に使われることが多いです。



無線を携帯しての森林パトロール
(昭和30年代後半・旧長野営林局管内)

北アルプスの上高地は大正五年に保護林が設定されたこともあり、松本営林署(中信森林管理署)により高山植物盗掘等取締の為の詰所(小屋)が作られ、巡視が行われました。高山営林署(飛騨森林管理署)でも大正時代から高山植物の保護管理活動が行われ、乗鞍岳には高山植物監視所もありました。また、富山営林署(富山森林管理署)、飯田営林署(南信森林管理署)などの高山地帯を管轄する各地の営林署管内でも森林パトロールが行われてきました。



パトロールの様子
(昭和44年・現在の南信森林管理署管内)

森林パトロールは職員のほか、非常勤の森林保護員、学生・社会人のアルバイトの方々などの協力も得ながら巡視、入山者への指導・啓発などを行ってきました。時代と共に形式や課題に変化はありますが、入山者と国有林の間を取り持つ役割もあり、いつの時代も苦労が絶えないエピソードが聞かれます。



パトロールの七つ道具①のぼり②ハンドマイク③腕章④パンフレット⑤配布用グッズ(カード、バッジ、リボン)⑥保安帽⑦登山者の意見をもらう「らくがき帳」
(昭和49年・現在の飛騨森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

揖斐川最上流部に広がるブナの天然林

三周ヶ岳ブナ生物群集保護林

設定目的

三周ヶ岳(さんしゅうがたけ)の周辺には、ブナを主体とした広葉樹の原生的な天然林が広がっています。

これらの希少なブナの群落を有する森林の保護・管理を一体的に行っています。

地況・林況

当保護林は、岐阜・福井県境に近い三周ヶ岳の周辺及び同山の北東方面に広がっており、揖斐川最上流部の岩肌が露出している尾根部と沢部が入り組んだ、急峻な地形が見られます。

日本海側気候の影響を強く受け、年間降水量は約二、八〇〇ミリと、岐阜県内でも多雨地域にあたります。

林内には、ブナなど落葉高木の老木上に着生する希少種のヤシヤビシヤク(ユキノシタ科の落葉低木)も生育しています。

所在地
岐阜県 揖斐郡 揖斐川町



ヤシヤビシヤク

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

井端さん
作品のことを教えてください！
 静岡県の普通高校から飛騨市森林組合に就職してくれた新人さんが、時間をかけながらも伐倒する方向をしっかりと確認して、安全第一で木と向き合う様子を捉えた一枚です。



フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！

作品名：「真剣勝負」

昨年度の「中部の森林林業従事者写真コンテスト（フォトコン）」において、本作品で「優秀賞」を受賞された飛騨市森林組合の井端さんに、撮影した当時の想いや今年度の事業について取材させていただきましたのでご紹介します。

民有林の
林業の現場を取材してみたい！
 私は普段、事務の仕事をしていいますが、「林業を知るためには、現場に行かなければならない」と二年ほど前から現場に足を運んでいます。大きな木を伐倒している場面ではありませんが、いつも頑張っている新人さんの真剣な表情が良かったと思います。

事業地である飛騨市神岡町の六十年生の人工林をご案内いただき、間伐材の搬出作業を見学させていただきました。

事業地の面積は約二十五畝、森林所有者は二十六名いるとのこと、間伐する木は、所有者ごとに材積を調査し、同意を得てから伐採することのこと。

作業チームは三人体制で、山中で伐採した間伐材をタワーヤーダの搬取機に取り付けて運ぶ人、運ばれてきた間伐材をハーベスタで造材する人、木材を町まで運搬する人と、作業が分担されており、林業機械を使った効率の良い連携作業でした。

現場をよく知る新田事業管理課


長から「林業機械の中でも特にハーベスタの操作にはセンスが必要で、この現場ではチームリーダーが操作し、作業の隙間時間を利用して造材した木材の末口直径も測る」と教えていただきました。

安全確認を第一として、次から次へと材を搬出する無駄のない動作、連携作業を見せていただき、みんなで頑張つて成果を出す活気ある職場だと感じました。

◆飛騨市森林組合のご紹介◆
 飛騨市は広葉樹林が多く、森林組合では、ナラ等の薪の製造販売を行っています。また「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」に参画し、地域の貴重な資源である多種多様な広葉樹材の価値向上に取り組んでいます。

従業員の平均年齢は四十二歳で、最先端の林業機械を積極的に導入するなど、地域林業の更なる発展を目指しています。

取材協力／飛騨市森林組合
 電話／0577-74-2030
<https://hida-forest.org/>



編集長だより
 (中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

6月21日の早朝、公用車を運転し、松本経由で飛騨に向かいました。4月のフォトコン表彰式で初めてお会いした飛騨市森林組合の井端さんは、とても気さくな方で、「今後とも現場の従業員に寄り添って、林業の魅力を若い世代に伝え、伝承できるよう努力していきたい」との熱いメッセージを聞いて、絶対に現地取材させてもらいたいと思いました！

飛騨の森林や林業、広葉樹材の取組など、どれも魅力的でしたが、一緒に働きたい、過ごしたいと思う「人」が職場や地域にいることが最大の魅力だと私は感じました。

取材当日、フォトコン写真の新人さんは、遠い現場で作業しており、お会いすることはできませんでしたが、いつかまた、林業の現場で活躍する姿を見せていただきたいと思います。

これからもフォトコン作品から繋がる林業の魅力を随時お伝えします！



森林組合として全国で初導入したオーストリア製のタワーヤーダ(キャタピラ式)は、悪路や狭所の多い作業道をリモコン操作で自走でき、現場で活躍しています！

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

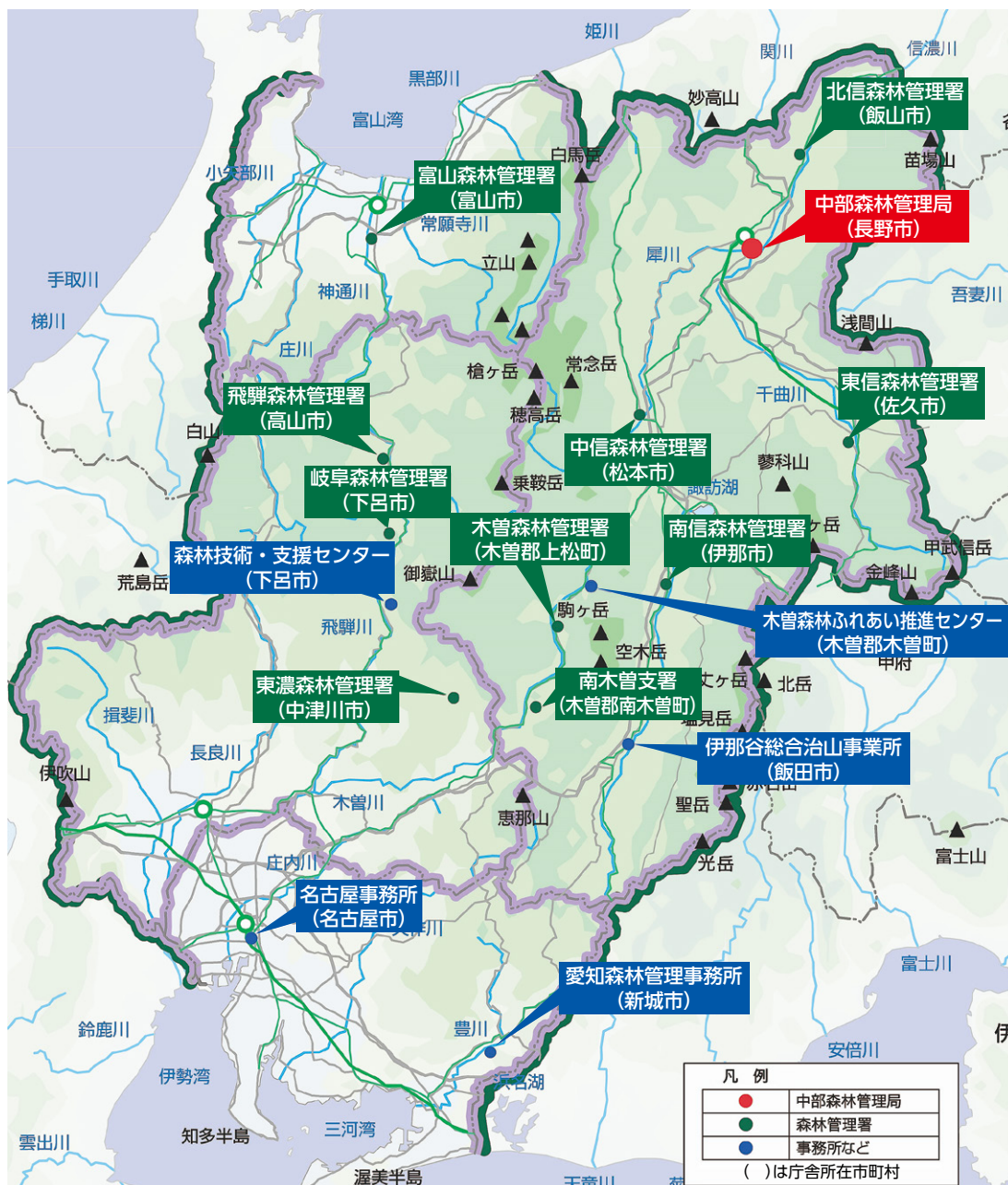


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoroo@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。